

# ニュース

## 災害橋梁応急復旧工事 (九大線第2玖珠川橋梁)

今年6月末に起つた北九州地方の大水害は各地において鉄道その他の交通路を寸断した。

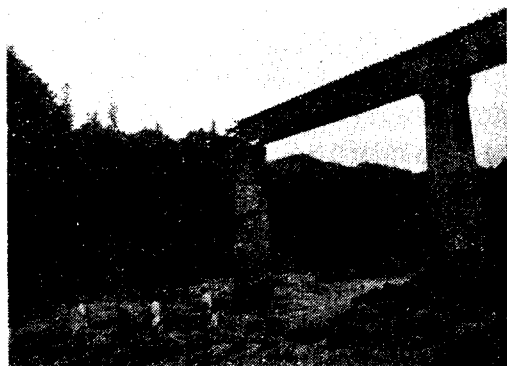
ここに紹介するのは九大線第2玖珠川橋梁(豊後三芳—豊後中川間)の応急復旧工事である。第2玖珠川橋梁は支間 2.3m の上路鉸桁 5 連より成立ち、軌条面は水面より約 14m の高さである。

現場附近では今度の水害において、雨量 300~400mm において大多数の被害が発生しており、本橋梁も上流の木造道路橋の流失により橋脚1基が転倒、上路鉸桁 2 連流失し、橋脚1基変状という被害を受けたものである。

本橋梁の応急復旧は橋脚が長いのと流失橋脚位置が流心部で施工困難とされたが、次の応急復旧工事を施工した。すなわち捨石と木工沈床によつて仮橋脚基礎を2箇所作り、この上にトラス仮設用ベント(鋼脚) 2 組をもつて仮橋脚を組立てる。久留米方橋台前には木造ステーディングを組立て、これと橋台間には軌条桁(支間 2.5m)を渡す。木造ステーディングとA号ベント間には旧陸軍の九九式重構桁をもつてKS-12、支間 32m の桁を架設し、AB両ベント間には既存の支間 22.3m の上路鉸桁を縦移動し、この移動の長さだけ新たに支間 9.8m の上路鉸桁をBベントと3号橋脚間に架設したものである。

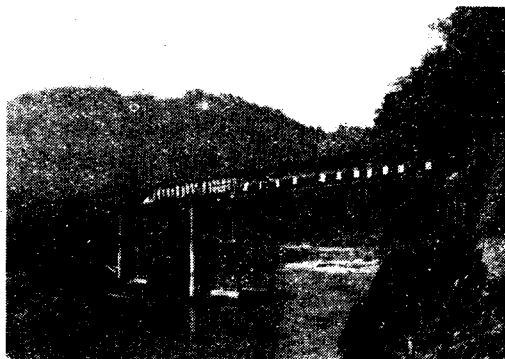
重構桁鋼脚の修理、架設は桜田機械工業株式会社が行つたものである。

写真—1 水害を受けた第2玖珠川橋梁

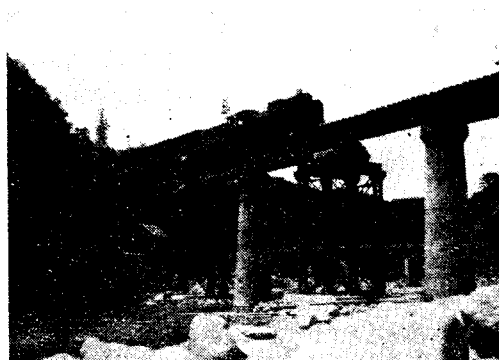


(橋脚1基転倒、プレートガーダー2連流失せる状態)

写真—2 仮設用ベントによる仮橋脚及び支間 32m の応急用トラス



写真—3 復旧完了、除行運転中



6月27日災害発生以来45日、7月15日着工以来25日で8月8日開通し、現在25km/hで徐行運転している。(東京工事事務所 浅間敏雄)

### ダムに関する文献の残部について

サベージ博士寄贈のダムに関する文献の頒布は、ほぼ完了いたしました。なお次の点数が少しづつ残部がありますので、御希望の方は至急学会あて定価、送料をつけて御申込下さい。

Trial-Load Analysis of Stress Condition in Ross Dam raised to a top elevation	円	円
Foundation Bearing Tests at Davis Dam	75	円10
Treatise on Dams, chapter 9, Gravity Dams	440	45
Treatise on Dams, chapter 1, Compendium	370	35
Treatise on Dams, chapter 4, Basic Consideration		
Treatise on Dams, chapter 10, Arch Dams	970	100
Treatise on Dams, chapter 12, Spillways	260	35
Treatise on Dams, chapter 13, Outlet Works		
Determination of Stress from Measurements in concrete Dams	85	10
Seismic Stability of Earth Dam	130	20

## 記 事

◎第4回理事会(昭.28.9.14)出席者:平井会長,福田,菊池両副会長,兼重,榎,中路,佐島,坂本,篠原,最上の各理事,協議事項:1)8月中の行事その他報告,2)日本学術会議会員候補者を推薦委員会決定のとおり推薦すること。

- 全国区 菊池 明 建設技監,土木学会副会長  
 " 中原寿一郎 JREA 理事長,現日本学術会議会員  
 " 福田 武雄 東大教授,土木学会副会長  
 " 矢野 勝正 京大教授  
 地方区 (北海道) 大坪喜久太郎 北大教授,現日本学術会議会員  
 " (東北) 照井隆三郎 東北地方建設局長,土木学会東北支部長  
 " (関東) 大山松次郎 東大教授  
 " (中部) 田淵寿郎 名古屋市助役,現日本学術会議会員

なお関係学協会には協力方懇請の書状を出すこと。

3) 委員会委員に次の諸氏を追加する。

- 編集委員:最上武雄,平井 敦,斎藤迪孝  
 法規委員:立花文勝  
 橋梁構造委員:幹事として川崎偉志夫,菊池洋一

4) 会員名簿を12月15日を発行目途とし,体裁は従来どおりA5判,430ページ程度,会員特価100円とするが業者案内が2000件集まれば会員全部に無料配布することができるので,各理事は以上の目途で協力すること,5)秋のエキスカージョンの3案について協議の結果,菊池副会長,片平理事に一任(別紙お知らせ欄のとおり決定),6)土木賞贈呈方針について協議の結果,従来どおりの方針とすることに決定,7)前会長懇談会を9月22日開催し,40周年記念事業その他学会の運営について御意見をうかがうこと,8)11月9日土質基礎工学委員会と共催で,国鉄8階映画室で下記の講演を行うこと。

- 欧米視察談 国鉄技師長 藤井松太郎  
 国際会議報告(1) 東大教授 星 堃 和  
 " (2) 京大教授 村山朔郎

9) 会員入退会について(別掲参照)

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.28.9.21)出席者:岡本,佐島正副委員長,坂本,鈴木,柴原,三木,矢野,三上,各委員,徳平幹事。協議事項:(1)会誌及び論文集進捗状況報告,(2)投稿論文及び新規受付論文審査委員

の決定,(3)38巻11号登載論文を次のとおり決定。

倉田奈章:地震時の Stability Number について,松尾春雄・山内豊聰:いわゆるへドロのチキソトロピーについて,室田 明:浮砂濃度と流速分布の関連について,杉尾捨三郎:堰上流の堆砂現象に関する実験,石原安雄:余水路における衝撃波の実験的研究,嶋 祐之:勾配および摩擦抵抗を考慮した超波速流の研究。

(4)38巻9号討議依頼先の決定,(5)編集委員に最上武雄(東大),平井 敦(東大),斎藤迪孝(鉄研)の3氏を追加依頼した,(6)学術会議会員候補者の略歴,写真を学会誌に掲載する。

2. 抄録委員会(昭.28.9.8)出席者:森委員長,林,松本,平嶋,南部,吉村,千秋の各委員,徳平幹事,協議事項:1)第38巻第10号の抄録について,2)手持外国雑誌の Index について,3)次回より幹事を千秋委員が担当すること,4)次回に鉄道,都市計画の委員を追加すること。

3. 日本学術会議会員候補者推薦委員会(昭.28.9.4)出席者:平井会長,田中委員長,佐藤,兼重,今岡,中路,国分,最上,米元,坂本,榎,市浦,中島(代)の各委員,協議事項:平井会長の挨拶に次いで田中委員長から各委員の卒直な意見を求め,数氏の候補者を挙げたが,有権者数及び他部門の状況を勘案するとき,乱立することは不利を招くおそれが多分にあるので,少数の候補者を挙げ,特に組織を持たない大学関係に極力応援されるよう委員長から要望があり,種々協議の結果,別項のとおり全国区に福田,矢野,菊池,中原の4氏を推薦することとした。また地方区は支部から推薦してきた人々の外に,関東地区としては電気の大山松次郎氏は現第5部長でもあり,土木に深い理解を有せられるから是非推薦したいと全員の賛成を得て決定した。関係学協会には会長名で丁寧な協力方懇請状を出すこと。

4. 第3回法規委員会(昭.28.9.9)出席者:稲浦委員長,大石(代内田),尾之内,落合,菊池,田中,滝尾(代),種谷,中島(代佐々木),中道,比企,平山,兵藤,堀江,宮沢,山岡の各委員。協議事項:稲浦委員長から久しく本委員会を開催しなかつた理由と政府部内の空気その他を説明の後,立場上委員長を辞し,後任として小沢久太郎氏を推すと提案し可決した。引続き新委員もおられるので落合幹事から従来の経過及び工務士法案の内容説明があつた。一方相当進

んでいる技術士法について平山、堀江、比企の3氏から交々に説明があり、来議会に提出の運びになっている。技術士は Consulting Engineer の資格であり、工務士はライセンスであるから自ら性格を異にしているから工務士も早く立案決定する必要がある。その他種々活潑な意見が出て、工務士は1級2級の別を付けた第2案がよいとの議があつたが次回までに各委員原案について研究すること。委員に運輸省国有鉄道部施設課長 立花文勝氏を追加すること。

5. 第13回面崩壊防止委員会(昭.28.9.16)出席者:沼田委員長,最上,宮崎の各委員,八十島,渡辺,三木,市嶋,斎藤,伊崎の各幹事,和仁,木村,横山,松波,塚本,原島の各研究員,協議事項:1)今年度の研究方針並びに項目について,2)各委員の更改について本年度は純理学,農学関係項目がないのでお願いしないこととし,建設省福岡委員在外中のため後任を最上委員に一任する,国鉄技研星野湯一氏と国鉄保線課から1名を委員に追加。

6. 第14回面崩壊防止委員会(昭.28.9.28)出席者:最上委員長代理,竹下,高坂,宮崎,星野(代古泉)の各委員,平島,伊崎,斎藤の各幹事,和仁,木村,平川,福永,池原,松波,塚本,原島の各研究員,協議事項:1)国鉄中川橋梁改良工事の概要及び地質を説明の後討議,2)今後,現在築堤及び新設築堤について各種試験を行うこととする。

#### ◎その他

1. 第3回応用力学連合講演会(昭.28.9.8~10)東大工学部第2号館において開催,今回は日本建築学会及び応用物理学会が幹事学会となり,予告したとおりのプログラムにより講演があり年とともに盛大なることは斯界のため誠に慶賀にたえない。講演終了後,同工学部会議室で懇談会を開催し,各学会代表の挨拶並びに意見の交換を行い茶菓をともにし約2時間和やかに懇談した。なお講演数及び聴講者数は次のとおりであつた。

総合講演	3題	聴講者数約	150
第1部(材料力学)		65	130
第2部(流体力学)		32	80
第3部(熱力学)		12	50
第4部(振動,波動,応用数学)		32	50
		144	250

2. 前会長懇談会(昭.28.9.22)出席者:那波,久保田,大河戸,辰馬,八田,谷口,草間,黒河内,鈴木,吉田,三浦の各前会長,平井会長,福田,菊池両副会長,榎,中路,佐島,篠原,片平の各理事,懇談事項:平井会長から明年当学会の40周年に当るので

諸先輩の御意見を拜聴したいと述べ昼食をともにしながら和やかに懇談,終つて各前会長の御署名を頂いた。

昭和二十八年九月三日  
土木学会前会長懇談会  
星月山平 吉田徳次郎  
鈴木雅次 辰内藤藏  
三浦義男 伊波良雄  
八田嘉明 大野浩彦  
草間樟 谷口三郎

3. 全日本建設技術協会では日本学術会議第3期会員候補者として全国区に菊池明,矢野勝正両氏を地方区に照井隆三郎,田淵寿郎の両氏を推薦したとの報に接した。

4. 日本道路協会では同上候補者として全国区に菊池明,福田武雄の両氏を推薦したとの報に接した。

#### 支部だより

◎東北支部 懇親田基大会(昭.28.9.12)宮城寮において丸山五段,宮本三段,原田,堀井,佐藤二段等11名参加,優勝者北松友義初段を筆頭に五位までの受賞者あり,和気あいあいのうちに22時終了。

秋季特別講演会(昭.28.9.26)仙台鉄道教習所及び東北地建試験室(実験)において聴講者50名を集め次のとおり講演があつた。

プレストレスト コンクリートについて

極東鋼弦コンクリートKK 藤田龜太郎  
鉄筋プレッシャー,ウェルディングについて

日本ガス圧接KK 稲積豊二

なお同日17時より宮城寮において支部役員会が開かれ,日本学術会議第3期会員選挙運動対策につき協議した。参会者28名。

◎中部支部 年次大会を10月17,18両日,静岡県伊豆長岡において開催し,鋪装工事,狩野川放水路,有料道路及び自動車専用道路を見学する予定とのこと

◎西部支部 幹事大塚謙一君病氣静養中のため下津秀美君(九州電力KK)と交替した。

講演及び見学会(昭.28.9.25)門司港駅2階集合所で次の水害についての講演を行い,終つて見学し,成功裡に終了した。参会者180名。

- a) 講演：関門トンネル排水工事 門司市山崩れの崩壊源の性格  
 国鉄下工 二松慶彦 門司市社会教育主事 上田一人  
 九州鉄道災害の概観  
 b) 見学：門司市山崩れ現場，田ノ浦岸壁工事  
 国鉄西支付 福田正典 建設省国道トンネル工事

昭和 28 年 9 月分入退報告 (28.9.1~9.30 現在)

1. 入会 42 名 (正 14, 准 5, 学 23) 2. 退会 35 名 (正 15, 准 17, 学 3) 3. 転格 580 名 (准より正 3, 学より准 577)

会 員 現 在 数 (28.9.30 現在)

名誉員	賛助員	特別員	正 員	准 員	学生員	合 計	増加数
20	16	254	4 780	5 876	790	11 736	7

38 卷 8 号 “コンクリート橋の横荷重応力について” 正誤表

ページ	行	誤	正
20	左欄 9	鉛直内面	鉛直面内
20	" 22	$\Sigma m^v = 0$	$\Sigma M_m^v = 0$
20	右欄 5	$-3 R_{(m-1)m}$	$-3 R_{(m-1)m}$
22	" 6	$+\left(\frac{G}{2E}\right) K_{m+1}' \sin \alpha_{m+1} \phi_{m+1}^v$	$+\left(\frac{G}{2E}\right) K_{m+1}' \sin \alpha_{m+1} \cos \alpha_{m+1} \phi_{m+1}^v$
22	" 9	$-\left(\frac{G}{2E}\right) K_{m+1}' \sin \alpha_{m+1} \cos \alpha_{m+1} \mu_m^h$	$-\left(\frac{G}{2E}\right) K_{m+1}' \sin \alpha_{m+1} \cos \alpha_{m+1} \phi_m^h$
22	" 9	$+\left[ K_{m+1} + \left(\frac{G}{2E}\right) K_{m+1}' \right] \sin \alpha_{m+1} \cos \alpha_{m+1} \phi_{m+1}^v$	$+\left[ K_{m+1} + \left(\frac{G}{2E}\right) K_{m+1}' \right] \sin \alpha_{m+1} \cos \alpha_{m+1} \phi_{m+1}^h$

昭和 28 年 10 月 10 日 印 刷 土 木 学 会 誌 定 価 100 円  
 昭和 28 年 10 月 15 日 発 行 第 38 卷 第 10 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番地 中 川 一 美  
 印刷者 東京都港区赤坂溜池 5 番地 大 沼 正 吉  
 印刷所 東京都港区赤坂溜池 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京中央局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話 和田倉 (20) 3945 番  
 発 行 所 社 団 土 木 学 会 振 替 東 京 1 6 8 2 8 番